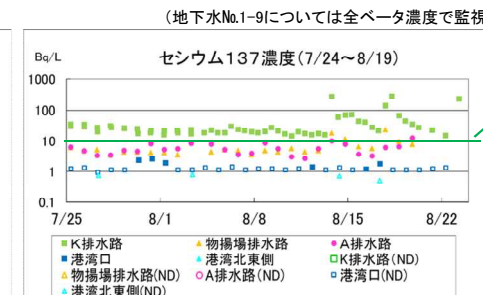
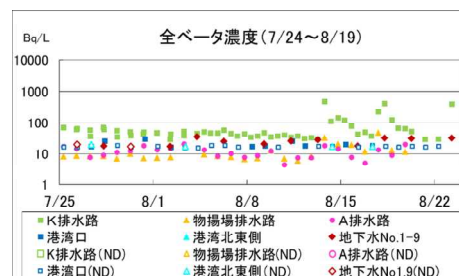


- **前回(7月30日)以降のデータ公開数は約4,000件**
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約4,000件を公開しました(8月20日に公開を開始した線量率等400件含む)。
線量率データは8月20日以降測定したデータを順次公開してまいります。
- **1号機建屋カバー解体開始後もダスト(粉塵)の値等は安定**
8月3日に2枚目の屋根パネルを取り外しておりますが、構内ダストモニタ、敷地境界のモニタリングポストの指示値に有意な変動はありません。
- **7日に発生したダスト警報は自然界の物質の影響と推定**
8月7日、敷地南側境界付近のモニタリングポストNo.7近傍のダストモニタで放射能濃度上昇を示す警報が発生しましたが、同日中に発生前の値に戻りました。
他の敷地境界および構内ダストモニタでは有意な変動がなかったことや同モニタの分析結果もふまえ、作業起因ではなく、自然界に存在する放射性物質(鉛212)の影響と考えています。

A 水(海水、排水路、地下水等)

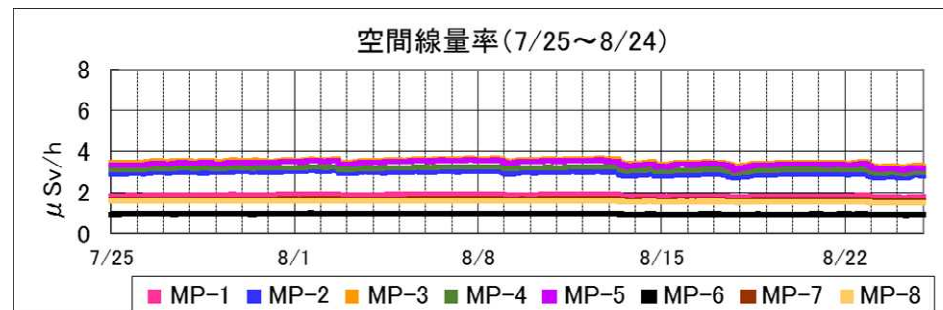
- ・降雨により排水路で濃度上昇が見られたが、港湾外では上昇は見られなかった。
- ・セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。
- 降雨の影響で排水路の濃度が上昇した日: 8/13, 8/18, 8/23の3日間。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

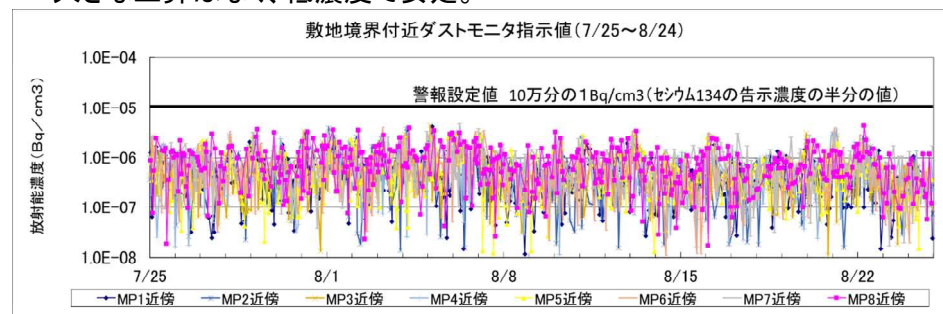
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- ・降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- ・大きな上昇はなく、低濃度で安定。



- ・8月7日 7:34～7:42の間、自然界の放射性物質による警報値超えが発生(最大: 2.2×10^{-5} ベクレル/cm³)。本グラフは正時の指示値により作成しているため当該時刻のデータは反映されていない。

●告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

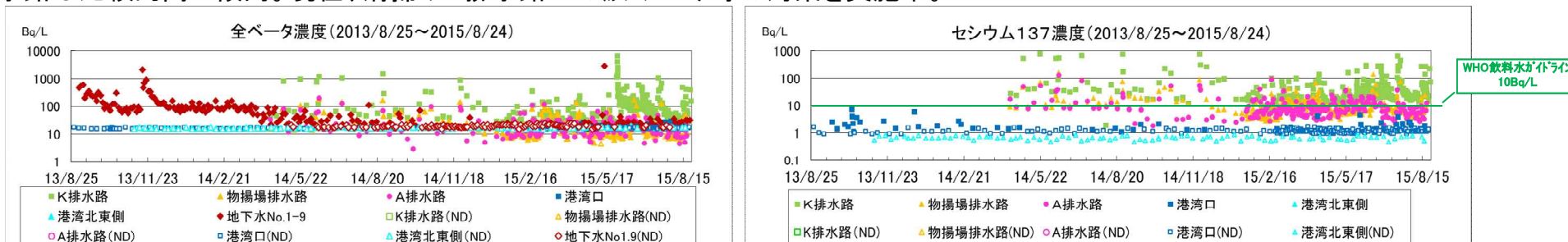


データ採取位置図(右のA、B、Cに対応するポイント)

放射線データの概要 過去の状況

A 水(海水、排水路、地下水等)

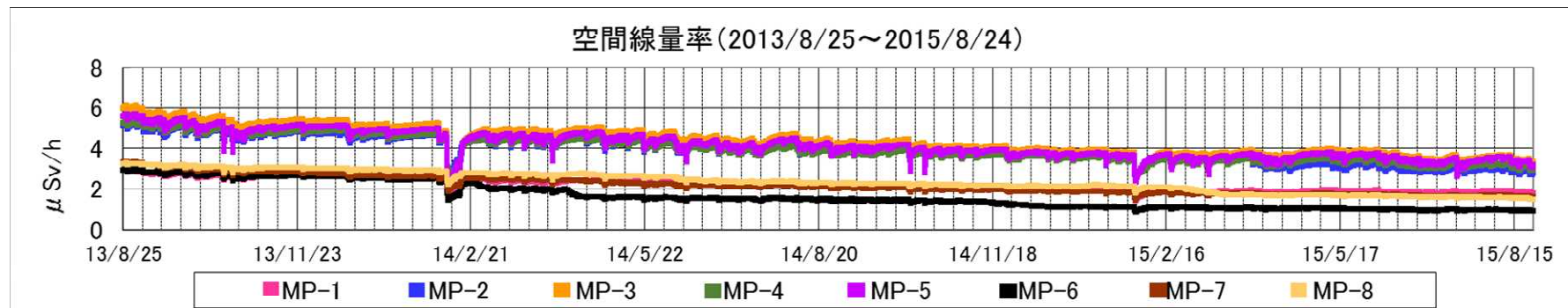
- ・港湾口は低水準で安定。全ベータは下降傾向、セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。現在、清掃やC排水路への汲み上げ等の対策を実施中。



- ・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。また、物揚場排水路、A排水路の最新データは2015年8月19日。
- ・港湾口北東側については、2013年11月7日より測定を開始。

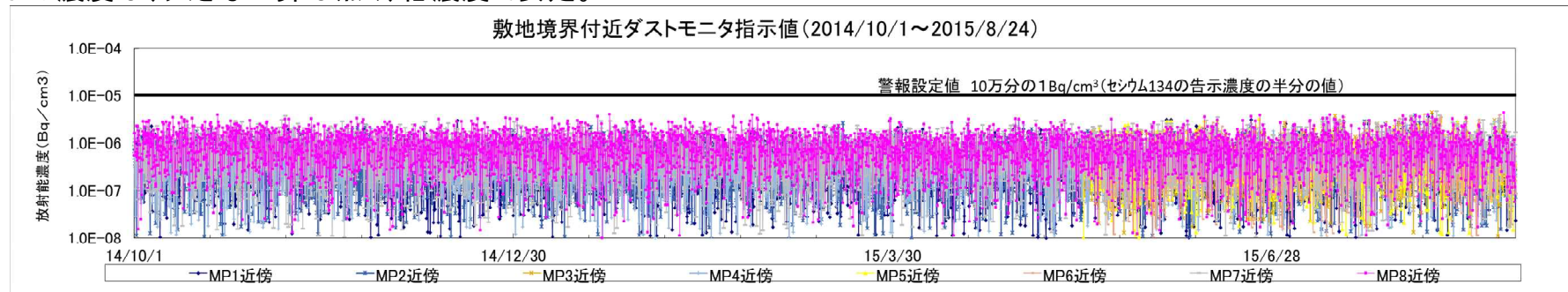
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング、飛散防止の徹底等が奏功し、全てのモニタリングポストにおいて約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



- ・MP1、2、4、7、8近傍は2014年10月1日、MP3、5、6近傍は2015年5月14日より、測定開始。
- ・2015年8月7日 7時34分～7時42分の間、自然界の放射性物質による警報値超えが発生(最大: 2.2×10^{-5} Bq/cm³)。ただし、本グラフは正時の瞬時値により作成しているため当該時刻のデータは反映されていない。